

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/06/01

欧米の多数イベントを確認しながら

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米金融政策の行方に関心戻る	2 - 3
		予想レンジ: 76.50 ~ 82.00 円	
カナダ/円	➡	欧州情勢次第の展開	4 - 5
		予想レンジ: 72.00 ~ 80.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



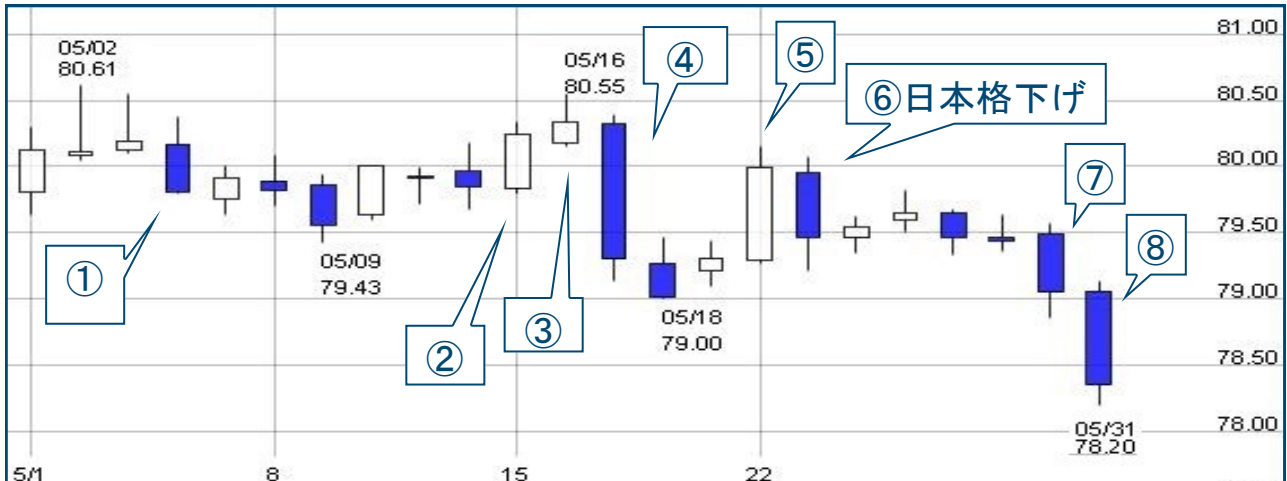
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.81円	80.61円	78.20円	78.35円



①	4日、米4月非農業部門雇用者数が11.5万人増と予想(16.0万人増)を下回った一方、前月分が上昇修正(12.0万人増→15.4万人増)され、米4月失業率が2009年1月以来の低水準である8.1%に低下(予想:8.2%)した事から、ドル/円は乱高下。ただ、失業率低下が労働参加率の低下によるものだったことが伝わると79.81円まで失速した。
②	15日、5月NY連銀製造業景気指数が17.09と予想(9.00)を上回ったことを受けてドル高が進行。さらに、ギリシャ大統領報道官が「連立協議はまとまらず、再選挙実施の方向」と報じられ、同国の財政再建やユーロ離脱の懸念が広がり、リスク回避のドル買いが強まると、ドル/円は80.33円まで値を伸ばした。
③	16日、日銀の追加緩和観測が一部で拡がった上、米4月住宅着工件数が71.7万件と予想(68.5万件)を上回ると80.55円まで上昇した。しかし、その後はNYダウ平均が冴えず、クロス円主導でドル/円は失速。なお、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では「数人は回復が失速すれば追加緩和が必要と指摘」「1人はツイスト・オペの延長が適切と発言」「約半分のメンバーが2014年後半まで異例の低金利が適切と認識」「ほとんどのメンバーは2014年後半まで、失業率は目標を上回り、インフレは目標の2%もしくは2%を下回る水準にあると指摘」という内容だった。前回よりも追加緩和の必要性を指摘していたメンバーが増えていたことから、発表直後のドル/円はドル売りで反応したが、値動きは限られた。
④	17日、「日銀は来週の会合で政策維持と予想」「日銀は戦略決定前に、ギリシャの再選挙や次回FOMCを監視」等とするシンクタンクレポートが伝わった上、米5月フィラデルフィア連銀景況指数が-5.8と予想(10)より弱い結果となったことから、急激に値を下げた。
⑤	22日、格付会社フィッチが日本国債を「A+」に格下げし見通しを「ネガティブ」としたことや、本邦財務省幹部が「最近の円高の進行には投機的な要素。必要なら行動する」と発言したとの報道、23日発表の日4月通関ベース貿易収支で予想より赤字額が大きくなるとの見方が広がったことなどをはやし、ジリジリと円安が進行した。
⑥	23日、日銀が一部の緩和期待に反して金融政策据え置きを発表した上、これまで声明で「強力に金融緩和を推進する」としていた文言を「引き続き適切な政策運営に努めていく」と変更した点が日銀の緩和姿勢の後退と受け止められ、円買いが強まった。
⑦	30日、スペインの財政・金融不安が強い中でユーロ/円が大きく値を下げると、ドル/円も連れて大幅安となった。
⑧	31日、米5月ADP全国雇用者数が+13.3万人(予想:+15.0万人)、米新規失業保険申請件数が38.3万件(同:37.0万件)と市場予想を下回る結果になったことを受け、ドル/円は78.20円まで大幅に下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

2012年5月のドル/円相場は78.20～80.61円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.8%の下落(ドル安・円高)となった。この月は、為替市場全体がギリシャの政情不安やスペインの金融不安を背景にユーロ主導で動く中、ドル/円相場は対ユーロでドルと円の双方が買われた結果、方向感に乏しく、値幅も限られる展開となった。米国債利回りは大きく低下したものの、29日まではドル/円の押し下げ要因になることは少なかった。しかし、30日・31日には米国債利回りの低下などもドル/円の押し下げ要因となってドル/円は一段安。3月中旬からのドル安・円高基調をさらに推し進めるような動きとなった。5月末に入り、米5月雇用統計の発表が近くなったことで、米国債利回りの動きがそれまでの欧州問題由来のものから米国独自材料を睨んだものになってきたことがその背景にあるとみる。

目先、まず注目されるのは米国の金融政策の行方だ。焦点は6月19-20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、6月で終了予定のツイスト・オペの後継になる金融政策について何らかの決定があるか、もしくはそれ以降の政策についての示唆があるかどうかになる。当原稿執筆時点ではツイスト・オペはそのまま終了になるとの見方が大勢を占めているが、FOMC当日までは各種経済指標や要人発言などから結果を類推していく流れが続くだろう。ドル/円は追加緩和期待が高まれば米国債利回り低下→ドル売り、金融引き締め観測が強まれば米国債利回り上昇→ドル買い、という動きになりそうだ。さらに、そうした事前の観測と実際にFOMCで決定されたことの差異、FOMC声明や米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見で示唆されるFOMCの景気判断や金融政策の方向性などが、FOMC当日はポイントになるだろう。

もちろん、スペインやギリシャに対する不安が広がる中で神経質な展開となっているユーロ/円、ユーロ/ドルの値動きは引き続きドル/円相場の波乱要因になると見られる。併せて関連報道には要注意だ(ジェルベズ)
(予想レンジ: 76.50～82.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(金)	5月米雇用統計	6/17(日)	ギリシャ再選挙
	5月米ISM製造業景況指数	6/19(火)	5月米住宅着工件数
6/5(火)	5月米ISM非製造業景況指数	6/20(水)	5月日通関ベース貿易収支
6/6(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)		日銀金融政策決定会合議事要旨(5/22-23分)
6/8(金)	4月日経常収支		米FOMC政策金利発表
	4月米貿易収支	6/21(木)	6月米フィラデルフィア連銀景況指数
6/9(土)	5月中国消費者物価指数	6/25(月)	5月米新築住宅販売件数
6/13(水)	5月米生産者物価指数	6/26(火)	6月米消費者信頼感指数
	5月米小売売上高		6月米リッチモンド連銀製造業指数
6/14(木)	5月米消費者物価指数	6/27(水)	5月米耐久財受注
6/15(金)	日銀金融政策決定会合(14日～発表)	6/28(木)	第1半期米GDP・確報値
	5月米鉱工業生産	6/29(金)	6月米シカゴ購買部協会景気指数
	6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		EU首脳会議(28日～)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	80.82円	81.83円	75.45円	75.82円



①	4日、米4月雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比11.5万人増にとどまった事(予想は16万人増)を受けてNYダウ平均株価や原油価格が大きく値を下げた(WTI原油先物は100ドル割れ)。米雇用統計の結果を受けてドル/円が下落した事もあって、カナダ/円は80.10円まで値を下げた。
②	8日、加4月住宅着工件数が24.49万件と予想(20.40万件)を上回るとカナダ/円は小幅に上昇した。しかし、6日に行われたギリシャの総選挙で第2党に躍進し、連立内閣の樹立を模索していた急進左派連合(SYRIZA)のツィプラス党首が「組閣できれば債務の支払猶予を求める」などと発言した事をきっかけに欧米株価が下げ幅を拡大。リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は79.56円まで下落した。
③	11日、中国の4月鉱工業生産や4月小売売上高が予想を下回り、同国の景気減速懸念が高まると、カナダ/円は一時79.35円まで下落した。その後、加4月雇用統計の好結果(失業率は事前の予想通り前月の7.2%から7.3%に上昇したものの、雇用者数ネット変化は事前予想の1.00万人増を大幅に上回る5.82万人増と2か月連続で大幅な増加を記録)を受けて80.30円まで上昇するもギリシャSYRIZAのツィプラス党首が、パプリアス大統領による挙国一致内閣樹立の提案を拒否すると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は再び80円を割り込んだ。
④	17日、スペイン紙が「格付け会社ムーディーズがスペインの銀行17行の格下げを検討」と伝えた事や、同国が一部国有化したバンキア銀行の預金流出が10億ユーロを超えたとの報道を受けて欧州株が下落するとカナダ/円は大幅に下落した。さらに、米5月フィラデルフィア連銀景況指数が予想を大幅に下回って悪化するとドル/円が急落。これにつれてカナダ/円は77円台に下落した。
⑤	23日、日銀が金融政策決定会合で追加緩和を見送ると、一部で追加緩和を期待していた向きが円の買い戻しに動き、カナダ/円は78円を割り込んで下落した。さらに、NY市場では、一部通信社が「ユーログループの作業部会がユーロ圏諸国に対しギリシャのユーロ離脱の可能性に対する個別の緊急時対応計画を準備するよう要請した」と報じたことをきっかけにNYダウ平均株価が下げ幅を拡大。リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は77.00円まで値を下げた。
⑥	31日、スペインの銀行問題に対する懸念からリスク回避ムードが強い中、米5月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数が予想よりも弱い結果になるとNYダウ平均株価が一時100ドル超の下げとなり、カナダ/円は75.45円の安値を付けた。

CAD/JPY

今月のポイント

5月のカナダ/円相場は75.45円～81.83円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.1%の大幅下落(カナダドル安・円高)となった。カナダ中銀が利上げの可能性を示唆(4月17日)して以降の同国主要経済指標は、4月住宅着工件数や4月雇用統計を筆頭に良好な結果が目立ち、4月消費者物価指数(コア)については前年比+2.1%と予想を上回る伸びを示した。カナダのファンダメンタルズの悪化は今のところ見られないが、ギリシャの政局に続きスペインの銀行不良債権処理に伴う政府財政への懸念が強まり、世界的に株価が下落する中で、5月はカナダドルが売られ円が買われる事になった。

6月についても、欧州関連のイベントが多く(6日ECB理事会、17日ギリシャ再選挙、21日ユーロ圏財務相会合、22日EU財務相理事会、28-29日EU首脳会議)欧州情勢がカナダ/円相場の最大の手掛かり材料となる見込みだ。ギリシャのユーロ離脱やスペインの国際支援要請などの不安が高まるようだと、カナダ/円の下落は免れないだろう。ただし、前述のイベントなどで欧州情勢に対する安心感が広がれば(ECBの追加緩和やギリシャ再選挙で旧連立与党が勝利、ユーロ圏共同債の発行に向けた議論の前進など)、利上げ期待と相まってカナダドルが大きく上昇する事も考えられる。5日に発表されるカナダ中銀の声明は特に注目されよう。(神田)

(予想レンジ: 72.00～80.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(金)	5月中国製造業PMI	6/19(火)	5月米住宅着工件数
	5月米雇用統計	6/20(水)	5月日本通関ベース貿易収支
	5月米ISM製造業景況指数		米FOMC(19日～)
6/5(火)	カナダ中銀政策金利発表	6/21(木)	ユーロ圏財務相会合
	5月米ISM非製造業景況指数		4月加小売売上高
6/7(木)	5月加Ivey購買部協会指数	6/22(金)	5月加消費者物価指数
6/8(金)	4月日本貿易収支・経常収支	6/26(火)	6月米消費者信頼感指数
	5月加住宅着工件数	6/29(金)	4月加GDP
	5月加雇用統計		EU首脳会議(28日～)
6/13(水)	5月米小売売上高		
6/15(金)	日銀金融政策決定会合(14日～)		
6/17(日)	ギリシャ再選挙		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。